

令和6年度

第1回 富士特別支援学校富士東分校学校運営協議会（報告）

1 日 時 令和6年5月17日（月）午前10時から正午まで

2 参加者

(1) 学校運営協議会委員（敬称略）

上村 一成（元特別支援学校長）
鈴木 修（特定非営利活動法人くらしえん・しごとえん 代表理事）
船津 裕子（船津クリニック 薬剤師）
佐野 勝（青葉台町内連合会 連合自治会長）
熊谷 仁（富士東高等学校 副校長）
高橋 美喜（富士東分校 PTA会長）

(2) 教職員

高田 宗享（校長）
鈴木 耕輔（副校長）
岩附 敦史（部主事）
杉澤 陵太（教務課長）

3 次 第

- (1) 校長あいさつ
- (2) 任命書交付
- (3) 学校運営協議会について（説明）
- (4) 会長、副会長の選任
- (5) 校内参観
- (6) 議事
 - ア 令和6年度 学校経営計画の承認
 - イ 協議、質疑応答（会長）
 - ・「富士東分校の良さを活かした連携づくり」について
- (7) コンプライアンス委員会

【議事録】

1 校長あいさつ

- ・ 新入生が入学して1か月半が経つ。開校富士東分校に来るたびに、新しさ、若々しさ、新鮮さを感じる。富士東高校との共生・共育の取組は他県からも注目されている。今年度も、その歴史を創っていく、学校を創っていくという思いを持っていきたい。そして「地域に打って出る」をテーマに地域とつながり合う富士東分校でいたい。

2 任命書交付

- ・ 各委員に校長より交付



3 自己紹介

- ・ A委員
委員としては2年目になる。2年目だからこそできることを考えたい。先ほど会場まで案内をしてくれた2年生を見て、自信を持って生活する姿が垣間見えた。大きな成長を感じた。
- ・ B委員
今年度も先生たちと思春期における包括的性教育（人間の大事な部分を伝えられるような）のコラボ授業を実践したい。人権を守り、子供の自尊心を高める。失敗に対してどう行動できるか、そんな視点を大切にしながら取り組んでいきたい。
- ・ C委員
令和6年度、7年度と自治会長を継続することが決まった。昨年度は富士東分校が地区の行事に参加することで、地区に分校の存在が広まった実感がある。青葉台まちづくりセンターの清掃も大変ありがたい。今年度も地区の役員として、関係を築けるような機会を増やしていきたい。
- ・ D委員
今年度より赴任した。前任は静岡県総合教育センター。特別支援学校の教員向けの研修にも携わっていた。富士東高校としても共生・共育を進め、引き続き連携をしていきたい。
- ・ E委員
PTA会長2期目となる。新入生を迎え、先輩・後輩の関係が創る新たな富士東分校がスタートした。富士東分校のことをいろいろな方に発信できるように尽力したい。

4 学校運営協議会について

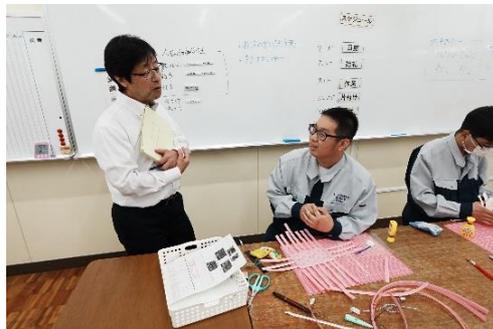
- ・ 「静岡県立高校・特別支援学校における学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）導入の手引き」（概要版）をもとに、副校長より説明

5 会長、副会長の選任

- ・ 会長：上村 一成 様
- ・ 副会長：鈴木 修 様 承認

6 動画視聴・校内参観

- ・ 作業学習見学（メンテナンス班、クラフト班）



7 議 事

【 学校経営計画について 】

- ・ 副校長 学校教育目標、分校教育目標の説明
目標具現化の柱の説明（守る、育む、つなげる）
- ・ A委員 昨年の経営計画を深めていく。生徒が今やろうとしていることに前向きになっている。「守る、育む、つなげる」の3つの柱を充実させていってほしい。具体的なことについてこの後、協議していきたい。
学校経営計画 承認

【 学部経営計画について 】（部主事）

【 富士東分校の良さを活かした連携づくりについて 】 （司会：A委員）

・ E委員

昨年度から、我が子の大きな成長を感じる。部活動については、剣道部に同好会「東雲会」立ち上がった。地域の誰もが剣道に参加ができる。同好会には富士東高校剣道部の生徒も所属していて、同世代の剣道部員との活動の場となっている。剣道は体当たり、障害の有無なく、勝負できる。社会とのつながり、協働という視点から、東海大翔洋小学校の学園祭でクラフト製品の外部委託等を提案している。外部に発信していく意識を持つ。潜り込めるところには、どんどん潜り込んでいくという姿勢が必要ではないか。更に、見たいと思うSNS、行きたいと思う東分校、買いたいと思う製品など、今持っているものを光らせる工夫をしてほしい。

・ A委員

つながるきっかけを掴み、発信する方法を工夫していくことは大切。「潜り込めるところには、どんどん潜り込んでいく」という言葉は、印象に残りやすい。



・ D委員

高校生にとって、分校が同じ学校にあることをどのように感じられているか、今後その思いがどうなっていくか、不透明な部分があるが期待することがある。生徒の中に、「こういうことしていいのか？」「こんなことをしたらどうだろう？」という芽はある。我々教員が仕掛けるのではなく、手探りでいいので、高校生の芽を育むような機会が生まれてほしい。富士東高校がどんな形で富士東分校にお返しができるか、模索をさせてほしい。分校・東校という垣根を作らず、一緒の校舎だからこそできることを考えていたい。

・ A委員

富士東高校生が一緒にいることをどのように感じているか。ここにヒントやきっかけがあると思う。2年目もそんなきっかけを見つけてほしい。

・ C委員

昨年の子の様子と今日を比べると2年生が大人になったように見える。2年生が落ち着いて自信をもってやっている。地域については、青

葉台祭地区とかかわりを深めてほしい。今年は青葉台地区文化祭以外にも催しが多い。（夏祭りを10月の第一日曜日に変更）その都度、学校に提案していきたい。地域の資源や人材についても紹介ができる。例えば、茶、ブルーベリーなどの農家など。様々なことから、地域とのつながりを創っていきたい。

- A委員

富士東分校の生徒が地域に貢献できる喜びを感じている。これは、地域の支えがあってこそで、大変ありがたい。双方に負担のない形で、発展、継続していくことが望ましい。

- B委員

卒業生のアフターケアをする中で、精神的に病んでいる方に関わるケースが多い。

今の東分校の生徒は、学校でこれだけ生き生きしている。でもやはり卒業後の姿も見据えてほしい。18歳で卒業後すぐに働くという現実を考えると、失敗をどう



乗り越えてきたかという経験が大切になってくる。挫けそうになったとき、それを支えたり、立ち戻してくれたりしてくれる要素に、自分にはこの強みがあるという気持ちや経験がある。子どもたちには一人一人の持っている強みがある。だめなこともあるけど、ここは得意。これはできる、自信もってできているという強みを伸ばしてほしい。

「違う存在であれ！ Be different!」、アベレージではなく失敗したことを共有して、違いを出していいことを認める富士東分校であってほしい。違いにこそ価値がある。そうやって、生きるスキルを自分で獲得してほしい。

- A委員

3年間でたくさん失敗して、失敗を共有していける生徒たちでいたい。相談する力は生きるために必要なことだと感じている。友だち同士の中で相談できたり、共有できたり、そういった関係を築いてほしい。そして教員側は、生徒の前向きで明るい部分ではなく、暗い部分にもフォーカスしていく意識をもっていくべきではないか。

8 コンプライアンス委員会

(1) 取組状況の説明（副校長）

- ・令和6年度不祥事根絶取組計画
- ・教職員の生徒指導に係る共通ルール

(2) 意見聴取

- ・ C委員
時間外勤務が少ない現状を継続し、教員の働きやすさや余裕が持てる環境が維持されていくとよい。

* 第2回学校運営協議会は、令和6年9月27日（金）に開催の予定